



2025 年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社フリークアウト・ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 Global CEO 本 田 謙
(コード番号：6094 東証グロース)
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 永 井 秀 輔
(TEL. 03-6721-1740)

通期連結業績予想数値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は 2025 年 9 月期の連結決算において、2025 年 5 月 15 日に開示した 2025 年 9 月期（2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）の通期連結業績予想数値と実績値との間に差異が生じました。

記

1. 2025 年 9 月期 通期連結業績予想数値と実績値との差異 (2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	EBITDA	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり当 期純利益
前回発表予想(A)	百万円 53,000	百万円 △200 ～300	百万円 50 ～550	百万円 1,700 ～2,200	百万円 △800 ～△350	円 銭 △48.92 ～△20.14
実績(B)	50,323	96	564	1,952	275	15.85
増減額(B-A)	△2,676	△203 ～296	14 ～514	△247 ～252	625 ～1,125	35.99 ～64.77
増減率(%)	△5.1%	—	2.6% ～1,029.1%	△14.9% ～11.3%	—	—
(参考)前期実績 (2024 年 9 月期)	51,711	1	366	1,775	△3,190	△179.75

2. 差異の理由

売上高については、北米事業およびインフルエンサーマーケティング事業が想定を下回ったことにより、予想を下回りました。特に北米事業では、同地域の広告需要期の月遅れという一過性の要因が影響しました。一方、売上は未達であったものの、日本事業が堅調に推移した結果、営業利益および EBITDA はほぼレンジ中央値で着地しています。日本事業では、動画・Connected TV 広告の商流変更による影響が想定よりも軽微であったことに加え、主要プロダクト（GP 等）の成長および子会社スミカの収益貢献が寄与しました。

経常利益については、IRIS 事業が第 3 四半期および第 4 四半期ともに好調で、持分法投資利益が想定を上回ったことから、予想の上限を超える結果となりました。

また、当期純利益については、当初は来期のオフィス移転に伴い特別損失 4.0 億円の発生を見込んでいましたが、想定よりも低コストで移転できる見通しとなったため、当該損失を取り崩し、通期では損益への影響がなくなりました。その結果、予想を大きく上回る着地となりました。

以上